

2007年4月12日

会 員 各 位

日 本 ファ イ ナ ン ス 学 会
「研究観望会」幹事 本 多 俊 毅

第 13 回 研究 観 望 会 開 催 の お 知 ら せ

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本ファイナンス学会第13回研究観望会を下記の要領により開催することといたしました。今回は「信用リスク」をテーマに、別紙要旨のとおり報告がなされるたいへん興味深いものですので、ふるってご参加たまわりますようお願い申し上げます。ご出欠につき、同封の申込書(葉書/Fax)にて5月18日(金)までにご返事いただければ幸いです。また、この度、正会員(個人)の方につきましては、ホームページからのお申込みも可能になりましたのでそちらもご利用下さい。なお、参加者多数の場合には、先着順とさせていただきます。

また、研究観望会では、別紙要領のとおり、報告者を募集しております。自薦他薦ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。とりいそぎ、ご案内する次第です。

敬 具

記

テーマ：「信用リスクモデルの観望とその新展開

- Top-down アプローチによるデフォルトの依存関係のモデル化 - 」

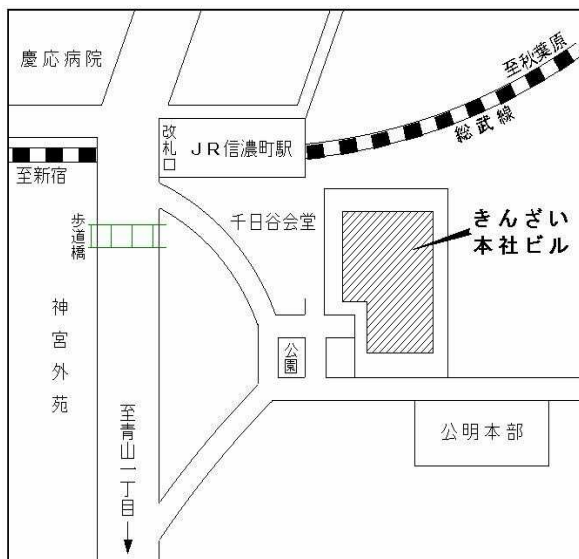
報告者：中川 秀敏 氏(東京工業大学)

日 時：2007年5月31日(木)午後6時30分より

会 場：(社)金融財政事情研究会 2F第2会議室(下図参照)

東京都新宿区南元町19(〒160-8519) Tel：03(3354)2377

J R 「信濃町」徒歩5分



研究観望会のお問合せ先：

幹事 本多 俊毅

(一橋大学国際企業戦略研究科助教授)

Tel：03(4212)3100

E-mail：thonda@ics.hit-u.ac.jp

申込先：日本ファイナンス学会事務局

(阿部・小林(奈))

東京都新宿区南元町19(〒160-8519)

Tel：03(3354)2377 Fax：03(3359)7947

URL：http://www.nfa-net.jp

以上

日本ファイナンス学会「研究観望会」

テーマ：信用リスク・モデルの観望とその新展開
- Top-down アプローチによるデフォルトの依存関係のモデル化 -

東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科
助教授 中川 秀敏

概要：

まず、数理ファイナンス理論に基づく信用リスク・モデルについて、構造型アプローチと誘導型アプローチという二つの主要なアプローチについて概説し、さらに誘導型アプローチにおけるデフォルト・リスクの依存関係モデル(条件付き独立モデル、デフォルト伝播モデル、コピュラモデル)について整理する。

次に、Giesecke-Goldberg, “A Top Down Approach to Multi-Name Credit”, working paper (2006) を取り上げて、“Top-down” アプローチという新しい見方によるデフォルト・リスクの依存関係の定式化手法について解説する。従来は、個々の対象の信用リスクをモデル化してその依存関係をどのように定式化するかという “Bottom-up” アプローチが主流である。それに対して “Top-down” アプローチは、まずポートフォリオ全体の信用リスク構造を誘導型アプローチで定式化し、random thinning という概念を用いて、ポートフォリオと個々の対象の信用リスクとの関連づけを行うという方法である。観望会では、“Top-down” アプローチを実務に適用するためのポイントなどについても議論したい。

主要な参考文献

- [1] Bielecki, T. and Rutkowski, M., Credit risk: modeling, valuation and hedging. *Springer, Springer Finance*, 2002.
- [2] Giesecke, K. and Goldberg, L. R., A Top Down Approach to Multi-Name Credit. *Working paper* (2006).
- [3] McNeil, A. J., Frey, R. and Embrechts, P., Quantitative Risk Management. *Princeton*, 2005.